

令和6年度

看護キャリアセンター報告

# 実習指導者が企画した 指導者育成プログラム

令和6年度実習指導者育成ワーキング

# 実習指導者育成ワーキング

実習指導者育成ワーキング(以下実習指導者育成WG)は、平成26年度より臨地実習現場での実習指導の質の向上を目的としてスタートし、今年度11年目を迎えた。

【WG構成メンバー】13名

WG長(看護師長)、看護師長2名、副看護師長6名(内2名教育担当)  
実習指導経験のある看護師4名(途中交代あり)

目的 臨地実習現場での実習指導の質を向上させる

- 目標
- ①実習指導者研修会の企画・運営・評価を行い、効果的な指導ができる実習指導者を育成する
  - ②実習指導者会議の企画・運営・評価を行い、実習指導に伴う課題に対して改善策を立てることができる
  - ③実習指導要項の見直しを行い、効果的な活用を促進することができる
  - ④看護学生への実習指導の質を担保することができる



# 実習指導者会議

目的 実習内容及び実習指導に関する事項を検討し、併せて実習指導者の資質向上を図る

目標 ①学生への教育的・効果的指導のあり方を検討し、実習指導に活用することができる

②実習指導体制に関わる課題を抽出することができる

③抽出した課題に対し、改善策を実施することができる

④実習指導要項の活用を促進することができる

回	1				2	3	4		5
日程	4/26(金)	5/24(金)	6/28(金)	7/26(金)	9/27(金)	10/25(金)	11/22(金)	12月	令和7年 2/28(金)
会議内容	・ ・ ・ 令和6年度学生アンケートについて ・ 2年間活動目標および活動計画について ・ 23年度保健学科総括について	九州大学保健学科 実習指導者連絡会	福岡看護大学 実習指導者連絡会	福岡女学院看護大学 実習指導者連絡会	・ 実習指導に関する情報共有	・ 学生の状況や実習についての情報共有	・ 事例検討(仮)	福岡女学院看護大学 実習指導者連絡会	・ 会議目標の評価と振り返り

WGメンバーが会議の企画・運営に参画した。第2回会議では保健学科より学生の特徴や教育の背景について情報提供があった。第3回会議では、各部署における実習指導体制の課題と対応策について、同じ領域で意見交換や情報共有、改善策の検討を行った。第4回会議では実習指導体制の共有として、複数の部署より実践報告を行った。

# 実習指導者会議 – 学生アンケート結果 –

九州大学病院で実習を行う学生を対象に質問紙調査を実施した。

調査期間: 令和6年9月2日～令和7年1月31日

調査内容: 実習指導を受け入れる部署の雰囲気や看護学生と実習指導者およびそれ以外の職員との関わり等に関する12項目と、実習指導者と教員の連携について、4～6件法で評価する。

対象領域: 精神看護学、小児看護学、母性看護学、成人看護学

## 倫理的配慮

無記名による調査であり匿名性が確保されること、記載の内容は実習の評価とは全く関係がないことについて説明を行い、記載内容が直接指導者の目に触れないように返信用封筒に入れて所定の回収袋で投函する

◆◆ 令和6年度 臨地実習に関するアンケート ◆◆  
(アンケート対象者: 令和6年9月2日(月)～令和7年1月31日(金)の期間に実習をした3年生)  
九州大学病院看護部実習指導者育成WG

このアンケート調査は、九州大学病院における看護学臨地実習について学生の皆様から評価をして頂くためのものです。皆様からご回答頂いた内容は、実習指導改善のための参考にさせていただきます。本調査は、無記名であり個人を特定することなく、結果は病院全体で統計的に処理を行います。したがって回答内容が皆様の成績評価などに影響することはありませんのでご安心ください。調査の趣旨をご理解、ご協力頂ける方は以下の設問からご回答ください。アンケートに答えない場合は、白紙のまま返信用封筒に入れて提出してください。

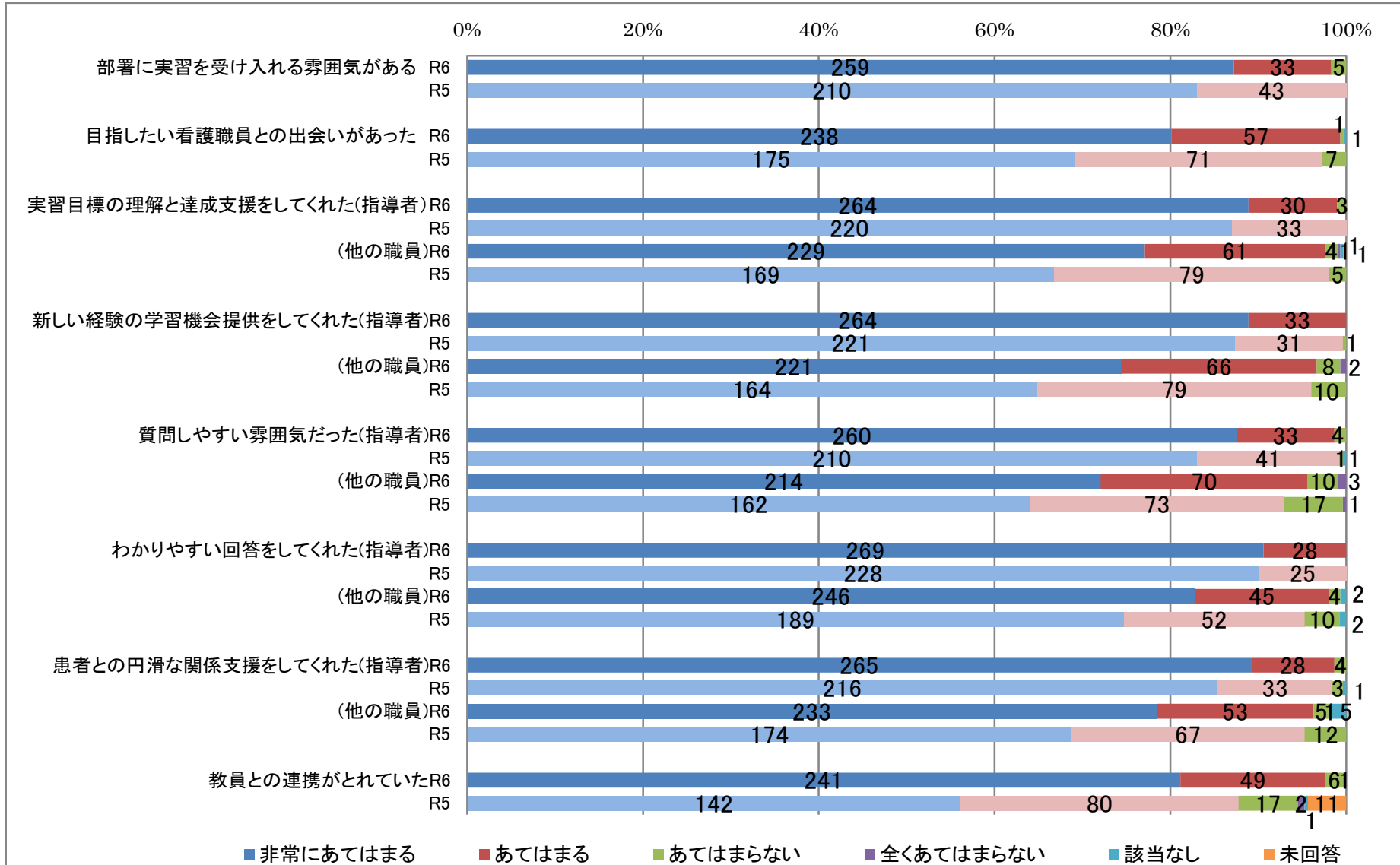
I 所属大学を○で囲んでください  
1. 九州大学      2. 福岡女学院看護大学      3. 福岡看護大学      4. 第一薬科大学

II 今回の実習領域を○で囲んでください  
1. 成人急性看護学 (急性期)      2. 成人慢性看護学 (慢性期)      3. 小児看護学      4. 母性看護学      5. 精神看護学

III 下記の項目について該当する番号を○で囲んでください

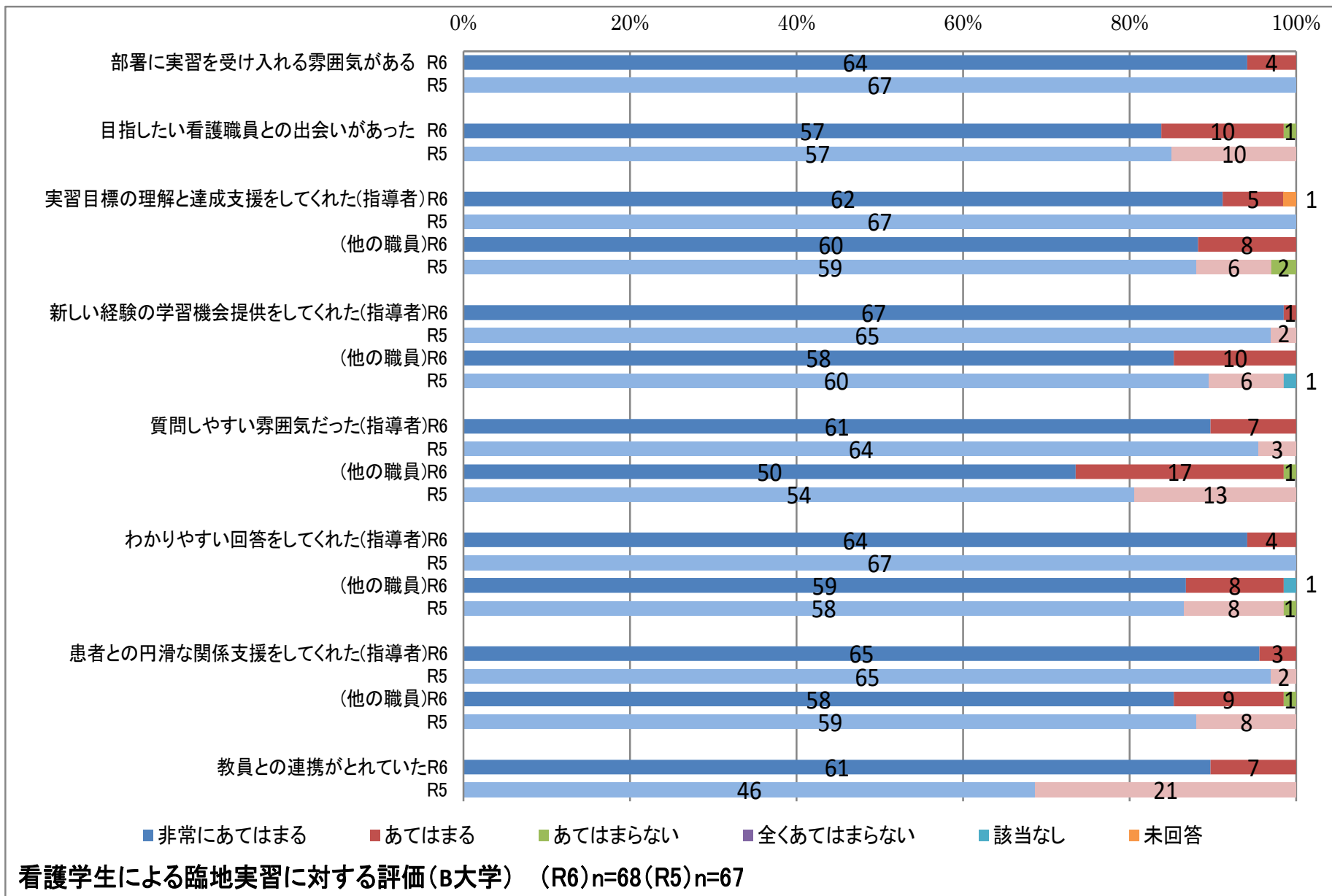
1 今回の実習病棟(部署)は、学生の実習を受け入れる雰囲気がありましたか	4	3	2	1	0
2 今回の実習であなたが目指したいと思うような看護職員との出会いがありましたか	4	3	2	1	0
3 実習指導者は実習目標を理解し達成できるように支援してくれましたか	4	3	2	1	0
4 実習指導者以外の看護職員は実習目標を理解し達成できるように支援してくれましたか	4	3	2	1	0
5 実習指導者は新しい経験ができるような学習の機会を作ってくれましたか	4	3	2	1	0
6 実習指導者以外の看護職員は新しい経験ができるような学習の機会を作ってくれましたか	4	3	2	1	0
7 実習指導者は質問しやすい雰囲気でしたか	4	3	2	1	0
8 実習指導者以外の看護職員は質問しやすい雰囲気でしたか	4	3	2	1	0
9 実習指導者は質問に対しわかりやすく答えられましたか	4	3	2	1	0
10 実習指導者以外の看護職員は質問に対しわかりやすく答えられましたか	4	3	2	1	0
11 実習指導者は受け持ち患者との関係が円滑にいくように支援してくれましたか	4	3	2	1	0
12 実習指導者以外の看護職員は受け持ち患者との関係が円滑にいくように支援してくれましたか	4	3	2	1	0
13 実習指導者と教員は連携をとりながら支援してくれましたか	4	3	2	1	0

# 実習指導者会議 – 学生アンケート結果 –

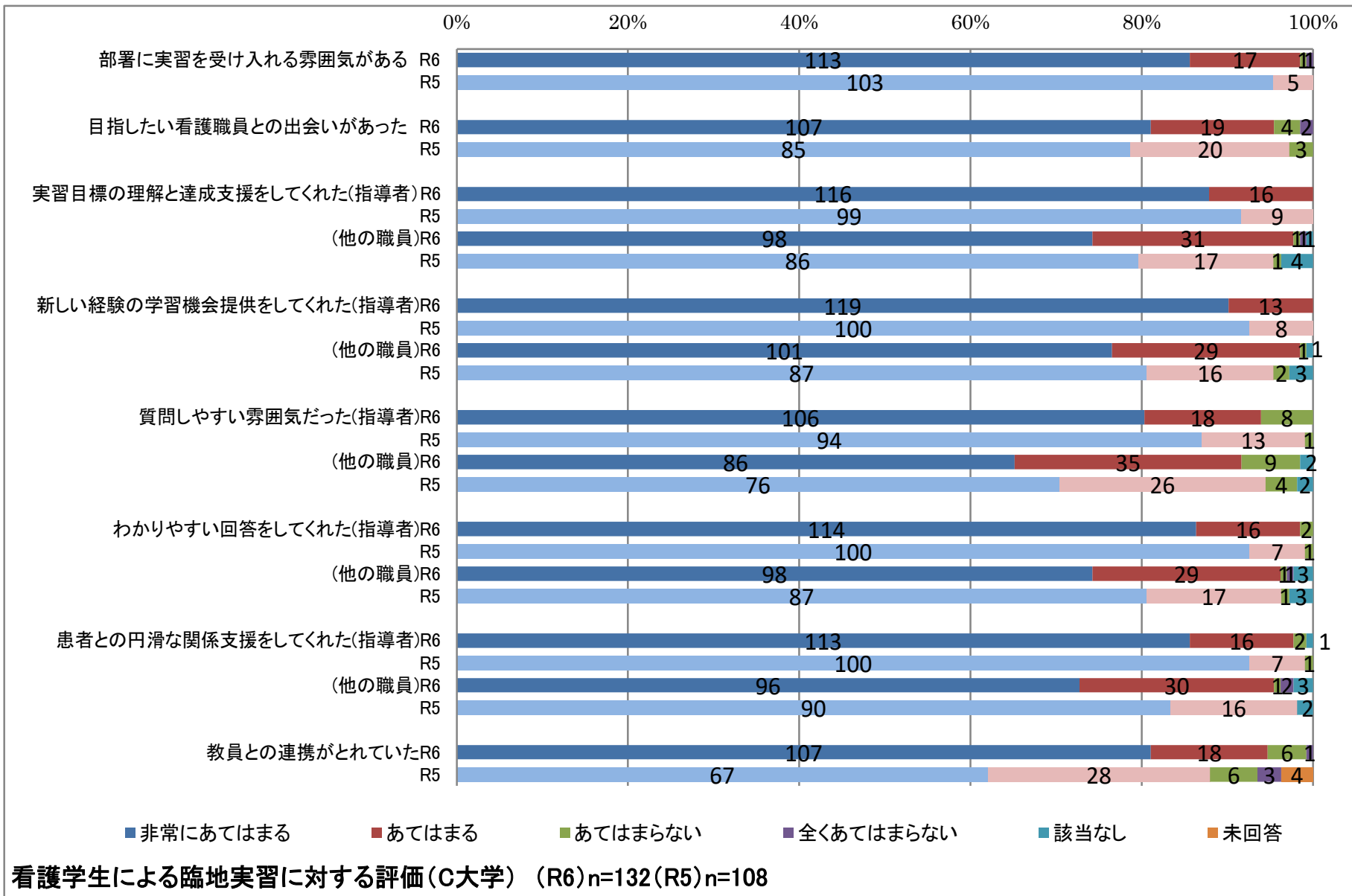


看護学生による臨地実習に対する評価(A大学) (R6)n=297(R5)n=253

# 実習指導者会議 – 学生アンケート結果 –

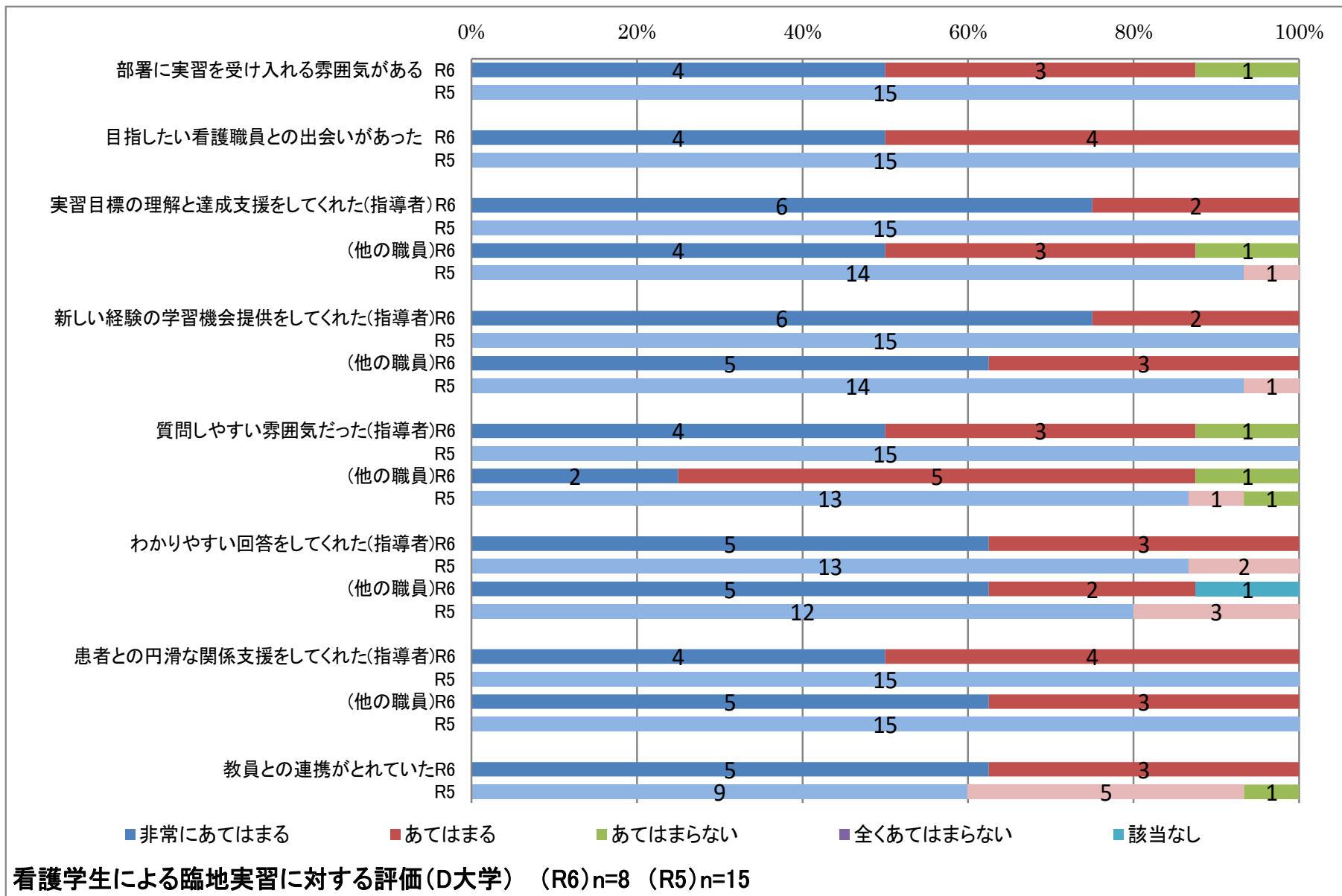


# 実習指導者会議 - 学生アンケート結果 -



看護学生による臨地実習に対する評価(C大学) (R6)n=132(R5)n=108

# 実習指導者会議 – 学生アンケート結果 –



# 実習指導者会議 – 学生アンケート結果 –

- 各大学の全領域の結果、すべての項目において「非常にあてはまる」「あてはまる」の割合が**90%以上**であった。「目指したい看護職員との出会い」や「実習目標の理解と達成支援」などの項目から、実習指導者自身がロールモデルとなり、学生の目標達成に向けた支援ができていたことが示唆される。
- 教員との連携**については、前年度と比較して、多くの領域において「非常にあてはまる」の項目が20%前後上昇した。実習指導者会議の実践報告で教員との連携に関する実例を共有したことや、実習指導者研修で教員との連携をテーマとした事例を取り上げたことが要因の一つであると推察する。
- 一方で、「質問しやすい雰囲気」「わかりやすい回答」などは前年度と同様に、実習指導者と他の職員との間に差があり、他の職員を巻き込んだ実習指導の実践が今後の課題である。

# 実習指導者会議

## 会議の主な内容

回	テーマ	内容
第1回	活動目標、活動計画、実習計画について	実習計画一覧を参照し、自部署の実習スケジュールを確認した。
第2回	臨地実習指導に関するポイントについて	保健学科より臨時実習指導におけるポイント(学生の特徴、学生のレディネス、看護過程の展開における課題と指導、学生の評価)について情報提供があった。
第3回	部署の実習指導体制における現状と課題、改善策の共有	領域別でディスカッションした後、全体で共有した。「受け持ち患者の選定に難渋している」「実習指導要項の活用ができていない」「実習指導者以外のスタッフとの連携がとれていない」の問題点はどの領域でも共通して挙げられた。対応策として、「学生1人に対し2名の患者の候補を選定する」、「1病棟、2病棟が連携し患者を選定する」、「申し送りノートやテンプレートを活用し、指導者間での情報共有を行う」などの意見が挙げられた。
第4回	実践報告、指導者間の共有方法の紹介、今後の課題と解決策の検討	2つの部署より実践報告を行った。部署全体で実習指導を行うための、スタッフとの共有や、教員との連携について報告があった。

# 臨地実習指導者研修会

目的 ①看護教育における実習の意義及び実習指導者としての役割を理解し、効果的な実習指導ができるよう必要な知識を習得する。

②自己の看護観の再構築と実習指導者像の形成を目指す。

対象者:新たに臨地実習指導者となる看護職員44名

九州大学医学研究院保健学科部門の教員と協働で開催

回	月	テーマ
1	6月	看護基礎教育課程 実習指導の原理
2	7月	看護学生の動向 看護過程
3	9月	カンファレンスの指導方法 事例検討
4	10月	実習指導の実際 事例検討
5	1月	まとめ

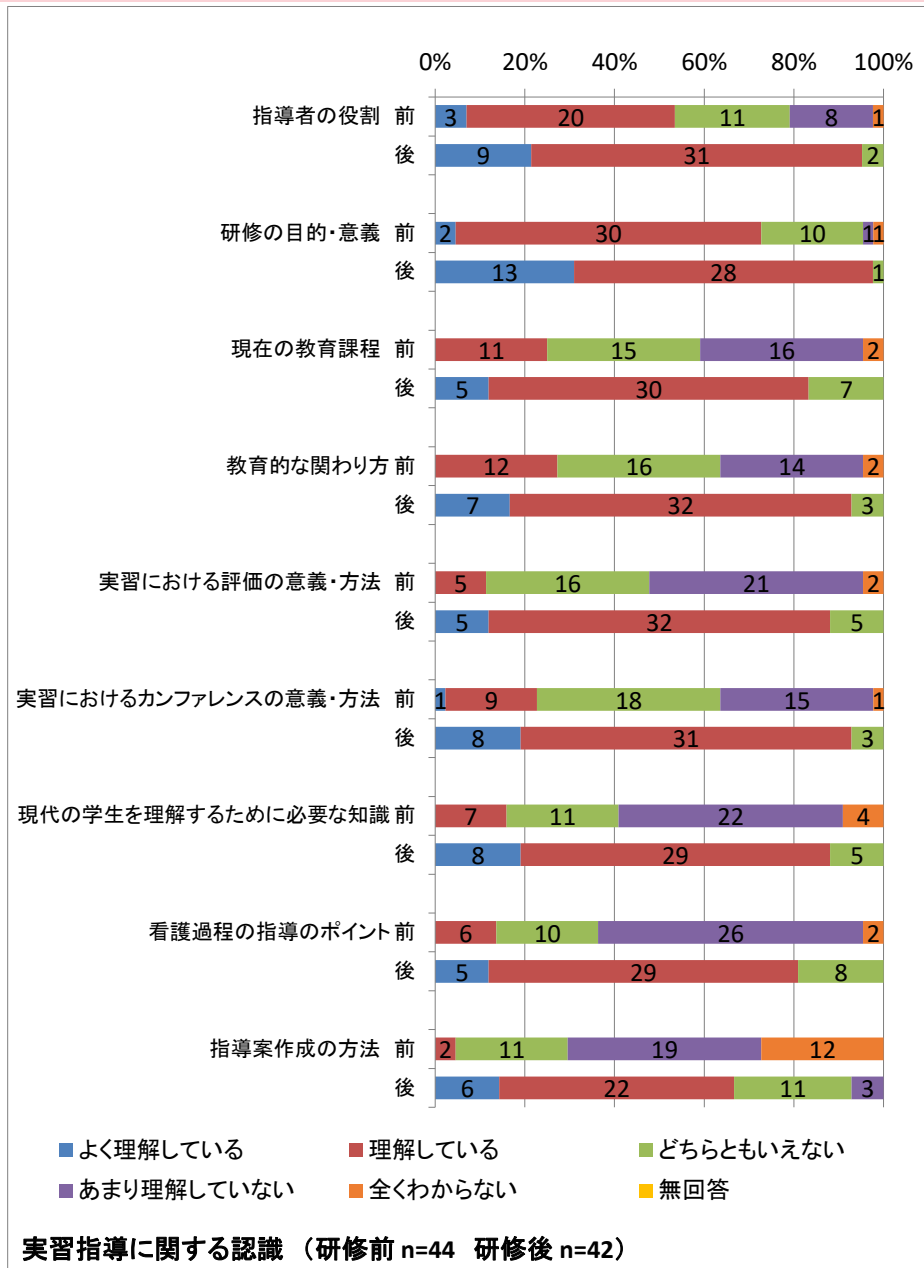
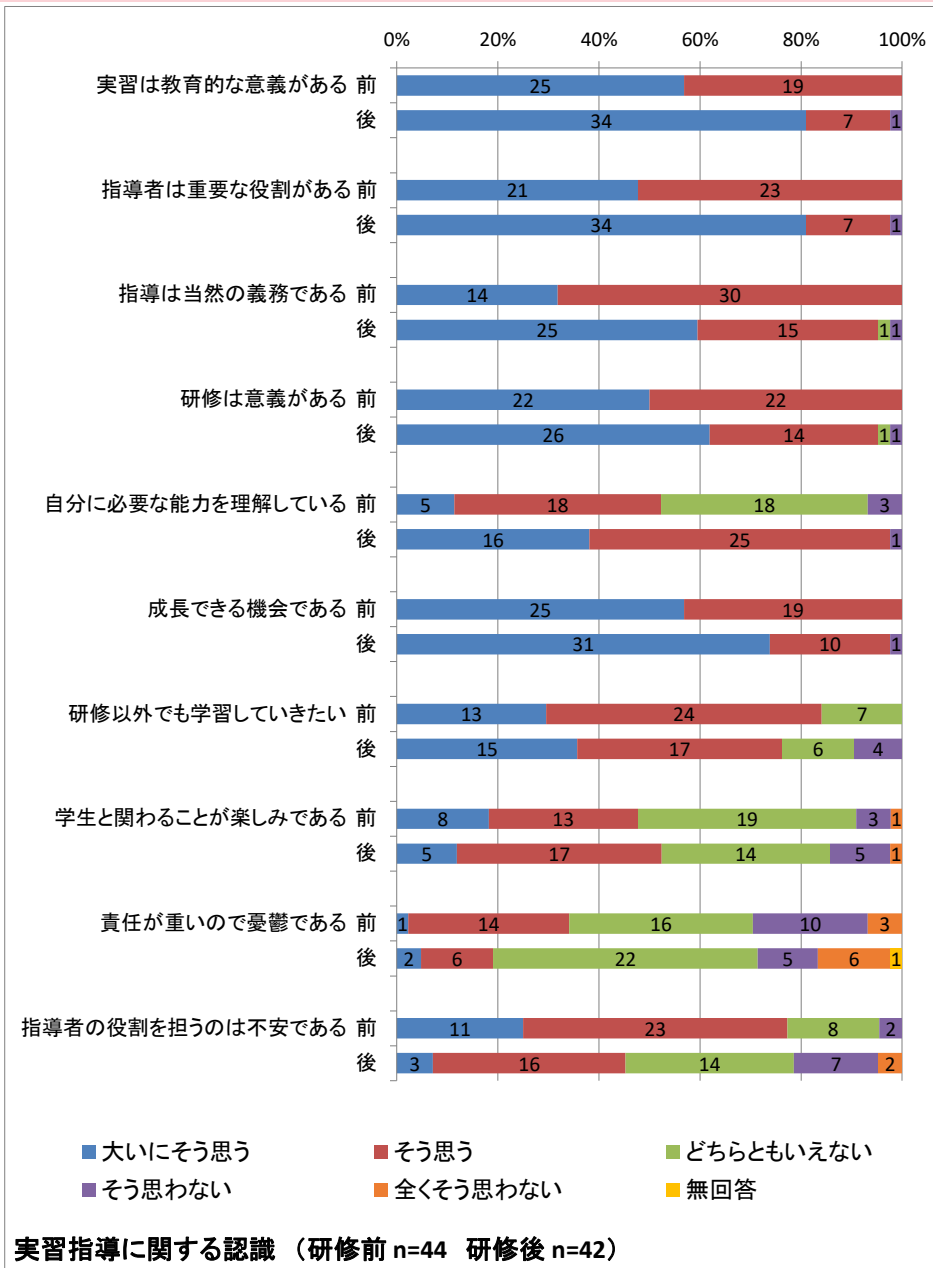
WGメンバーは、研修スケジュール作成、事例作成、ワークシート・発表形式の検討、当日の運営や司会進行を担当した

第3回・第4回実習指導における困難事例の検討

参加者の学びや感想

- 実際に起こり得る事例だと感じ、実践に活かせる内容であった。
- 学生自身の個性に合わせて、看護計画の立案を援助していきたい。
- 学生の実習目標の達成に向けて、教員との連携を図っていきたい。

# 臨地実習指導者研修会 – アンケート結果 –



# 臨地実習指導者研修会－アンケート結果－

R6 研修前 n= 44 研修後 n=42		
	平均値	±標準偏差
<b>【総合得点】</b>		
研修前	81.4	12.7
研修後	92.5	12.6
<b>【カンファレンスを実施できる自信】</b>		
研修前	13.3	12.7
研修後	15.1	2.5
<b>【看護実践能力を活用できる自信】</b>		
研修前	12.1	1.5
研修後	13.0	1.8
<b>【学習者として学生を尊重する自信】</b>		
研修前	15.7	2.4
研修後	17.0	2.3
<b>【学びを深めるために技法を活用できる自信】</b>		
研修前	11.1	2.1
研修後	12.9	2.1
<b>【実習教育の準備ができる自信】</b>		
研修前	11.3	2.1
研修後	13.1	2.0
<b>【学生の状況を判断できる自信】</b>		
研修前	10.2	2.5
研修後	12.2	2.2
<b>【学生の学びを促進できる自信】</b>		
研修前	7.7	1.8
研修後	9.3	1.6

「臨地実習における学生の学習にどの程度効果的な影響を及ぼすことができるかという信念」に関する変化をみるために、「臨地実習に対する教師効力尺度(坪井ら、2001)」を用い、研修前後における比較を行った。

学生の準備状況の理解の面では、「学習内容」や「看護技術習得状況」について肯定的回答が増加した。教師効力尺度については、全ての項目において研修前より研修後に増加を認め、研修や経験の積み重ねから、自信をもって効果的な実習指導を行うことができたことが示唆される。

# 臨地実習指導者研修会（アドバンスコース）

目的 看護教育における実習の意義及び実習指導者としての役割を再認識し、  
実習指導に活かす

対象者:条件を満たし推薦を受けた看護職員22名

九州大学医学研究院保健学科部門の教員と協働で開催

回	月	テーマ
1	6月	看護基礎教育課程 実習指導の原理
2	7月	看護学生の動向 看護過程

看護実践において人材育成の柱となるべき中堅  
看護師の人材活用を積極的に図るため、臨地実  
習指導者研修アドバンスコースを開催している。  
看護実践力や臨床教育力の向上だけでなく、現  
状に則した部署における課題や指導体制の見直  
しといった看護管理力の視点を養うことにつな  
がっている

## 参加者の学びや感想

- 自分自身が学生の時との教育課程との違いを改めて感じた。学生の状況を知ることによって学生に対する理解をした上で学習に臨めると思った。
- 学生の個々の反応を注意深く観察し、個人の段階に応じた関わりや問題提起が出来るよう工夫しようと思う。

# まとめ

- 研修内容についてWG内で検討を重ね、実習指導者の質の向上を目指した。
- 臨地実習の場において学生の直接的なコミュニケーション支援の課題もみえており、個別性に応じた関わりや教員との連携について、研修へ取り入れることができた。
- 学生の学びの支援や、学生と患者との関係支援、病棟スタッフとの連携など、効果的な実習を進める点において、実習指導者の役割は重要性が増している。
- 今後も効果的な指導が出来る実習指導者の育成と、部署全体で実習を受け入れる態勢を整えることを目指し実習指導者育成WGとして活動していきたい。